資料５－１

岐阜圏域　各医療機関の2025年に向けた対応方針【①今後の方向性】

| NO | 状況 | 医療機関名 | 所在地 | 自施設の現状等 | 2025年に向けて担うべき役割等 | 病床機能等の見直し | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | ①病床機能 | ②病床数 | ③医療機関の役割 | ④連携、再編 | ⑤その他 | ⑥現状維持 | 具体的な内容 |
| 2 | 変更 | 近石病院 | 岐阜市 | 【現状、特徴】<br>地域の救急から急性期、回復期リハビリテーション、慢性期療養、在宅までトータルな医療サービスの提供、かかりつけ医として最善を尽くしています。特徴といたしましては、外来を別棟とし通院治療を一層充実させ地域との共生・密着を第一に進めています。<br>【課題】<br>病床再編を考えるにおいて改築が必要でありますが、建物の構造上困難なことが見受けられます。 | 回復期を中心に在宅に力を注ぎます。 | ○ | | | | | | 病床再編について検討中でございます。 |
| 8 | 未回答 | 医療法人生友会<br>柳津病院 | 岐阜市 | 未回答 | | | | | | | | |
| 9 | 変更 | 岐阜市民病院 | 岐阜市 | 【現状、特徴】<br>・岐阜市立の公立病院として地域の医療を支える役割を担う当院は、関係機関と連携して市民のニーズに応え、小児医療、精神科医療を含む幅広い医療を提供するとともに、岐阜圏域の急性期医療の中心的役割を担う病院として、専門的な手術、がん医療などの先進的かつ高度な医療や救急医療を提供している。<br>・また、当院は災害拠点病院の指定を受け、災害時における救命医療を提供する機能を整備している。<br>・診療実績（令和４年度）<br>・入院延患者数　163,741人　・外来延患者数　308,892人<br>・平均在院日数　10.7日（一般）・救急搬送患者数　5,936人<br>・職員数（令和5年4月1日現在）　1,402人<br>【課題】<br>患者の高齢化に伴う救急搬送患者及び重症患者の増加に対応していくため、必要な人員、人材を確保し、救急診療部門及び重症患者管理部門、並びに入院病棟の機能の充実を図る必要がある。一方で、医師の働き方改革への対応や、看護師等の業務負担の軽減が課題であると考えており、病院全体で職場環境の改善に取り組んでいる。 | 公立病院として、小児医療、精神科医療を含む幅広い医療ニーズに対応するとともに、岐阜圏域の急性期医療を担う病院として、職員の充実を図りながら、救急搬送患者や重症患者の増加に対し、専門的な手術、がん医療などの先進的かつ高度な医療や救急医療を提供していく。また、災害拠点病院としての機能を整備し、自然災害や新興感染症の感染拡大等に対応していく。 | | | | | | ○ | 人口推計によると、岐阜圏域における65歳以上の高齢者数は今後も増加することが見込まれている。現状で年間の救急車搬送患者の受入人数がおよそ6,000人に迫り、また、一般病棟の稼働率が90%を超える状況において、公立病院として、また急性期病院として今後も地域に必要な医療を提供するためには、現状の機能を維持する必要がある考えている。 |
| 10 | 変更 | 独立行政法人国立病院機構長良医療センター | 岐阜市 | 【現状、特徴】<br>呼吸器疾患（結核を含む）は、呼吸器系腫瘍、呼吸器感染症、慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息などについて取り組んでおり、肺癌手術、化学療法、放射線治療も行っている。また、令和２年２月より現在に至るまで、コロナ患者を積極的に受け入れている。<br>神経筋疾患（筋ジストロフィーを含む）・重症心身障害等を有する障がい児（者）はショートステイから長期入院まで幅広く対応している。<br>【課題】<br>結核病床を３０床有しているが、令和４年度の結核１日平均患者数が11.6名という状況であり、全国、岐阜県の動向を見ても、患者数は年々減少傾向にあることから、病床数の削減又はモデル病床化を検討している。 | 急性期機能（肺がん患者等）を活かしつつ、他の医療機関で実施していない、結核、筋ジス・重心といった慢性期機能をしっかりと担っていく。また、近隣急性期病院の充実度、緩和ケア医療のニーズなどを踏まえ、令和5年1月10日より緩和ケア病棟を開棟した。今後、回復期系の機能を更に充実させる方針である。 | ○ | ○ | | | | | 令和5年1月10日より、中央4階病棟（急性期45床）を緩和ケア病棟（回復期18床）に転換した。また、結核患者数の減少による結核病床数の見直しを検討している。 |

| NO | 状況 | 医療機関名 | 所在地 | 自施設の現状等 | 2025年に向けて担うべき役割等 | 病床機能等の見直し | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | ①<br>病床<br>機能 | ②<br>病床数 | ③医療<br>機関の<br>役割 | ④<br>連携、<br>再編 | ⑤<br>その他 | ⑥<br>現状<br>維持 | 具体的な内容 |
| 15 | 新規 | 医療法人社団永寿会大橋整形外科病院 | 岐阜市 | 【現状、特徴】<br>地域に密着した医療機関として病院内に介護医療院・介護老人保健施設を併設し医療、介護を含めて地域に貢献していく事に重点を置いている。<br>【課題】<br>整形が主な診療科目であり内科診療が弱く外部医師に託しており今後、自医専属の内科医師の雇用が必要。 | 現状、特徴を維持していく | | | | | | ○ | 現在、慢性期の病床機能として運営しているが、急性期の病院での入院期間は1～2週間と短くリハビリ等にて在宅復帰の機能を有しておらず、現状において急性期病院からの術後の在宅復帰に向けてのリハビリ目的での転院依頼が多数あることから、今後も現在の病床機能と病床数にて継続して運営していく方針である。 |
| 16 | 変更 | 医療法人社団双樹会 早徳病院 | 岐阜市 | 【現状、特徴】<br>現状の許可病床数は、一般病床（地域一般3）の病床40床及び療養病床（療養病棟1）の病床60床。これらの他に透析ベット数55を有し、かつ透析患者の送迎手配も整え、地域の透析需要に対応させているのが特徴。また、令和2年7月から訪問看護（みなし）を開始し、現在は訪問リハビリも行っている。<br>【課題】<br>上記の通り、一般病床の施設基準は地域一般3を算定している。そのため、国の施設基準への対応を把握しながら、現状維持に努めることが課題と捉えている。 | ①透析病院として、地域の透析需要に更に応えることが出来る様、体制を整えていくことが役割と捉えている。<br>②地域医療構想の進展状況を把握しながら、役割分担には協力していけるように図っていくことが役割と捉えている。 | | | | | | ○ | 現在の許可病床数100床の存続を選択したい。また同時に国の施設基準への対応を把握しながら、現状維持が出来る様に、体制確保に努めたいため。 |
| 17 | 変更 | 河村病院 | 岐阜市 | 【現状、特徴】<br>当院は、脳神経内科を主とする病院で、救急搬送を含む緊急入院や、在宅および介護施設等からの初期医療を必要とする患者の受入を、DPC算定病床である急性期病床で行っている。また、大学病院や公立自治体病院等の急性期治療後の後方支援機能として、回復期、慢性期病床も併せて有するケアミックス病院である。この他に、同法人内で介護老人保健施設等の介護施設を有し、訪問診療・訪問看護、介護等の在宅医療及び在宅介護事業など、一気通貫した患者ニーズに対応可能な、地域に必要とされている役割を担っている。<br>【課題】<br>・建物の老朽化による建替え或いは、大規模改修<br>・医師をはじめてとする医療従事者の確保<br>・電子カルテの導入 | 引続き現状担っている役割を継続していく | | | | | | ○ | 現状・特徴に記載している同様の役割が今後も必要と考える為 |
| 19 | 変更 | 岐阜赤十字病院 | 岐阜市 | 【現状、特徴】<br>令和4年度は一般病床の稼働率80%超・紹介率79.7%・逆紹介率102.9%とコロナ以前より増加し、地域医療支援病院としての役割が大きくなっている。また、感染症指定医療機関として新型コロナ感染症患者を4,831人受入れした。<br>【課題】<br>現在新型コロナ感染症患者の受入れに1病棟を使用しているため、一般病床の稼働が高いレベルで安定しているが、収束後が未知数であることや将来的な医師の確保が課題である。 | 2025プラン策定時から変わらず災害拠点病院や感染症指定医療機関としての役割が果たせるように高度急性期や急性期病院の機能を維持しつつ、地域医療支援病院として在宅治療や地域包括ケアシステムを活用して地域福祉に貢献する。 | | | | | | ○ | 一般病床稼働率・紹介率・逆紹介率の全てにおいて2025プラン策定時を超えており想定していた以上の役割を果たしていると考えている。また、2025プランでも言及した感染症指定医療機関として多くの新型コロナウイルス感染症患者の受入れを行った。さらに、今年に入っては救急車の受入件数も増加しており、救急医療の分野でも地域医療支援病院としての役割が増大している。 |

| NO | 状況 | 医療機関名 | 所在地 | 自施設の現状等 | 2025年に向けて担うべき役割等 | 病床機能等の見直し | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | ①<br>病床<br>機能 | ②<br>病床数 | ③医療<br>機関の<br>役割 | ④<br>連携、<br>再編 | ⑤<br>その他 | ⑥<br>現状<br>維持 | 具体的な内容 |
| 23 | 変更 | 岐阜清流病院 | 岐阜市 | 【現状、特徴】<br>地域包括ケアシステムのなかで、岐阜大学医学部附属病院、岐阜市民病院等の急性期治療後の後方受入病院、開業医および介護施設からの初期医療を必要とする患者の受入れ、岐阜市の輪番制(二次救急)等による救急患者の受入などの医療を提供。<br>【課題】<br>医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の要員の確保。 | 高齢者の増加に伴い、高齢者がかかりやすい肺炎、脳梗塞、心不全、股関節・大腿骨近位骨折などの疾患が増加することが予測されることから、高度急性期治療後のリハビリテーション体制を主体とした医療機能が必要である。また、法人内の連携を含めて、地域での医療・介護・リハビリの総合施設として地域の開業医および介護事業者などと連携を深め、ポストアキュート及びサブアキュートの受入れ体制を維持する。 | ○ | ○ | | | | | 現在休止している一般病床55床(西2階)について、急性期病床から回復期病床(48床)への転換を予定している。 |
| 30 | 変更 | 羽島市民病院 | 羽島市 | 【現状、特徴】<br>羽島市内唯一の病床を有する医療機関として、救急機能・急性期機能の役割を担い、回復期機能についても市内の診療所や介護施設との連携を推進して、在宅療養後方支援病院としての役割を果たしている。<br>【課題】<br>現状の救急医療体制並びに診療科体制の維持 | 羽島市内唯一の病床を有する医療機関として、岐阜医療圏南部地域及び近隣も含む救急機能・急性期機能の役割を果たしていく。加えて、今後更に増加するであろう回復期機能について、早期からの入退院支援、市内の診療所や介護施設との連携を推進して、在宅療養後方支援病院としての役割を強化していく。 | 実施済み | | | | | ○ | 令和2年度に急性期病床36床を回復期病床に病床機能変更し、急性期病床178床(4病棟)を132床(3病棟)、回復期病床76床(2病棟)を112床(3病棟)とした。<br>なお、新興感染症等への対応を踏まえた病床利用について再検討する必要があるため、現状を維持する。 |
| 34 | 未回答 | 各務原病院 | 各務原市 | 未回答 | | | | | | | | |
| 35 | 変更 | 岐阜県厚生農業協同組合連合会<br>岐阜・西濃医療センター岐北厚生病院 | 山県市 | 【現状、特徴】<br>施設整備事業に伴う病床再編により、総病床は316床から284床へ減床しています。再編後の病床は効率的に運用しておりますが、岐阜県からの要請に応じて地域包括ケア病床(58床)を新型コロナウイルス感染症専用病床として運用しています。<br>病床機能としては、必要な急性期機能を有した上で、回復期、慢性期及び在宅医療等に積極的に取り組み、各医療機関及び介護施設等、関係機関と連携することで圏域北部において、切れ目のない医療機能を担う病院としての一翼を担っています。<br>【課題】<br>①常勤医師の確保について<br>令和4年6月現在、常勤医師は23名で、常勤診療科は内科、外科、整形外科及び泌尿器科となっています。その他の診療科は非常勤医師で対応しており、救急医療と診療体制の更なる充実に向けて医師確保が必要です。<br>②働き方改革への対応について<br>医師を始めとした医療従事者等の時間外労働等が社会問題化していることから、本院においても救急医療を安定的に担う上で更なる医師確保と働き方の見直しを検討する必要があります。 | 総病床284床を262床へ削減するとして計画し地域医療構想等調整会議の承認を得ていますが、新型コロナウイルス感染症重点医療機関として、専用病床の確保を行っていることから、削減時期を再検討する必要があります。<br>限られた医療資源の中で「地域完結型」の医療を支える役割を担う必要があります。今後、更に高齢者の比率が高まるなか、地域の医療需要に応えるため、地理的要因により急性期から回復期、慢性期医療まで中核的役割(中核病院)を担います。 | 実施済み | 実施済み | | 実施済み | | | ①②病床機能・病床数の見直しは、令和3年度に実施し32床減床した。<br>また、2025年に向け病床機能(回復期)の病床数の見直しを予定している。<br>④本会の中でセンター化し、医師及び医療従事者を必要時に相互派遣している。 |

| NO | 状況 | 医療機関名 | 所在地 | 自施設の現状等 | 2025年に向けて担うべき役割等 | 病床機能等の見直し | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | ①<br>病床<br>機能 | ②<br>病床数 | ③医療<br>機関の<br>役割 | ④<br>連携、<br>再編 | ⑤<br>その他 | ⑥<br>現状<br>維持 | 具体的な内容 |
| 37 | 変更 | 松波総合病院 | 笠松町 | 【現状、特徴】<br>〇当院の特徴<br>・当院は、高度急性期病棟・急性期病棟・回復期病棟・慢性期病棟の複数の機能をもつ病棟のある「ケアミックス病院」である。<br>・病床数は501床あり、複数の機能のうち、高度急性期病床・急性期病床で約7割弱を占めており、地域に高度な医療の提供を行っている。<br>〇当院の職員数<br>・職員数は、常勤者、非常勤者を合わせると1,400名を超える（2023年5月1日時点）。<br>そのうち、医師は約160名(研修医含む)、看護職員は約500名（非常勤含む）おり、高度な急性期医療を安全に提供できる体制を確保している。<br>〇当院における医療提供と総合的質管理<br>・2006年度からBSC（バランスト・スコアカード）やQC（Quality Control）活動を各部門、部署で行い、さらに2017年6月にQSR(Quality Surveillance and Recommendation)を開始し、当院の医療の質の向上に努めている。その結果として、平均在院日数や病床稼働率は高水準を維持することが出来ている。<br>*平均在院日数：11.75日（2022年度）　*病床稼働率：89.65%（※コロナ病床を除く）（2022年度）<br>・届出入院基本料(特定入院料含む)は、6つの施設基準の届出を行っている。<br>*急性期一般入院料1　*障害者施設等入院基本料(10対1)　*特定集中治療室管理料1　*ハイケアユニット入院医療管理料1　*回復期リハビリテーション病棟入院料1　*地域包括ケア病棟入院料2<br>〇当院の担う政策医療<br>・5疾病・5事業については、各診療科が垣根を越えて連携体制を敷いており、チーム医療として提供している。<br>・5疾病・5事業と在宅医療に関しては、すでに地域と連携を行っているが、精神領域の疾患、特に認知症に関しては、入院患者だけでなく、地域におけるケアを中心となって行っていく体制を構築している。<br>・救急医療において、開設以来24時間365日救急患者を断らないことをモットーに羽島郡のみならず、岐阜市南部、羽島市、各務原市および県外である愛知県一宮市の救急隊からの救急要請に対応し、地域の救急医療体制の維持に貢献している。また、2017年10月より救急科の標榜や救急ワークステーションを実施し、「ドクターカー」などで医療が現場へ出ていく体制を整え、迅速な救急医療の提供に務めている（2021年度：20件、2022年度：38件）。当院のメディカルコントロール（以下、MCとする。）体制は、岐阜地域MC協議会の下部組織として設置しており、院内だけでなく笠松町、羽島郡医師会、羽島郡広域連合消防本部からも協議会委員を任命している。現時点では、岐阜南地区で活動を実施しているが、より広い地域での活動を目指している。その他に病院救命士における、緊急車両や救急外来での活動に対する教育システムやOSCE（客観的臨床能力試験）形式の実技研修、活動記録及び事後検証の仕組みを当MCで担保している。MC責任医師は専任の救急科医師が担当しており、病院救命士活動時の指示出しや質の担保は、対面やオンラインで実施している。またWEBカメラを利用して遠隔でも質の担保を行うシステムを有している。<br>・地域の高齢者の骨折や誤嚥性肺炎に対して、専門的な知識を持つスタッフによるチーム医療で栄養サポートや口腔ケア、嚥下訓練、運動リハビリを介入することで、早期的に発症を予防することができている。<br>・国民的な疾患である高血圧、糖尿病、脂質異常症に対して、法人内の人間ドック・健診センターとの連携を図り、地域一体の生活習慣病管理を行っている。また、肥満は、高血圧、糖尿病、脂質異常症等の生活習慣病をはじめとする、数多くの疾患の危険因子であることから、2019年3月より肥満外来を開設し、医師・看護師だけでなく、薬剤師、理学療法士、管理栄養士、公認心理士の各分野の専門家によるチームで対応している。<br>・消化器病の治療において、岐阜大学から消化器専門医を2017年に3名、2020年に1名を迎え、各分野のスペシャリストが増えたことで、きめ細かい診療・治療対応が可能となり、地域に高度な医療が提供できている。また、内視鏡施行医の増加に伴い、対応件数も増加し、内視鏡検査予約の待ち時間の短縮を図ることができ、地域医療に貢献することが出来ている。<br>・へき地医療については、社会医療法人の使命として以前より中濃地区に医師派遣を実施しているが、2021年4月1日にへき地医療拠点病院の指定を受け、高山市国民健康保険久々野診療所へ医師を隔週で派遣し、へき地における医療体制の維持に務めている。<br>・小児医療（小児救急も含む）の提供はもちろん、小児発達障害児等の増加に対応するために2021年4月に『こころの発達診療センター』を開設し、医師を中心に、看護師、公認心理士、言語聴覚士などの様々な専門スタッフがそれぞれの専門性を活かして、診断や治療などに対応している。<br>・当院のがん治療の診療体制を管理・運用する組織として、がん治療部門、がん相談支援・診療連携部門、緩和部門、がんリハビリテーション部門、がんゲノム医療部門の5部門からなるがんセンターを設置し、患者に適切な治療を提供している。多職種の診療スタッフによる検討会等を定期的に開催し、職員のスキルや知識向上を図っている。また、がん相談窓口の設置やがん患者サロンの開催、パンフレットの設置等を行い、がん患者へのサポートや交流の場を提供している。放射線治療機器や無菌治療室等のがん治療に必要な設備等を有し、さらに2022年1月にがんの温熱療法の1種である高周波式ハイパーサーミアシステムを導入し、温熱によるがん細胞の破壊効果だけでなく、外科治療（手術）、化学療法や放射線治療に併用し、それぞれの治療効果を高めている。また2023年2月より放射線治療専門医を常勤医師として1名迎え、4月に放射線治療科を新設し、放射線治療部門の強化を図ることで、がん治療の大きな強みとなっている。2023年4月に呼吸器外科医が2名体制となり、岐阜県内でも呼吸器外科医師を複数名有する数少ない病院のひとつとなった。また、AI技術により医師をサポートする胸部X線画像診断支援ソフトウェアを導入し、より安心できる医療の提供に努めていく。また、このシステムを地域の開業医に開放していく予定である。①呼吸器内科医師（4名）・呼吸器外科医師（2名）の充実、②放射線治療の充実、③AIサービスの開始の3つを柱とした呼吸器センターを新設し、充実した医療が提供できる体制を構築した。<br>・外科系医師による手術の実施件数が増加する中、麻酔科医の重要性が高まっている。当院では、常勤の麻酔科医（指導医6名、専門医3名：計9名）により患者が安全かつ適切な手術を受けられるよう麻酔の安全管理と質の向上に努めている。2022年12月より術後疼痛管理チームの運用を開始し、多職種のスタッフによる患者の疼痛管理を実施している。 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | | ① 病床機能（高度急性期、急性期、回復期、慢性期）の見直し<br>当院では、2017年4月に病床機能及び整備が完了した状態である。しかし、圏域内の急性期医療の中心的役割を担うことが求められていることから、将来的には慢性期病床である障害者病棟は、協議の上、近隣の医療機関で対応していただく方針である。現有している慢性期病床は、地域で不足している回復期病床への転換を図り、地域における医療ニーズに応えるべく病床の確保に努める。<br><br>③医療機関の役割（診療科、5疾病5事業等）の見直し<br>〇質の高いがん診療の強化<br>がん診療におけるチーム医療体制を整え、診療に係る医師だけでなく、関連するすべての職員が、がん診療に関する知識の向上を図り、地域との連携協力体制（連携パスなど）、がん診療についての相談支援、内視鏡・ロボット手術などの高度な外科手術、IMRT等の放射線療法、化学療法、緩和ケアなどの医療提供を積極的に行っていく。近々での地域がん診療連携拠点病院の指定を目指す。<br>〇急性心筋梗塞対策について<br>発症者に対して適切な医療が提供できるよう周辺の消防機関との連携を強化し、高度な救命医療が切れ目なく迅速に提供できる体制を整備していく（救急ワークステーション等）。<br>また、発症予防の点から地域における研修会の開催などを積極的に開催し、地域住民への啓蒙を行い、連携医療機関に対しては、地域連携パスの普及を促進し、連携協力体制の強化を図っていく。<br>〇脳卒中対策について<br>当院の特徴を生かして、急性期、回復期等の各期に応じた医療を適切かつ切れ目なく提供できるように、地域との連携協力体制（連携パスなど）の更なる強化を図り、地域内での脳卒中対策の中心的役割を担っていく。<br>〇糖尿病対策について<br>糖尿病のスペシャリストが多数勤務（指導医4名、専門医4名：計8名）しており、医療資源が豊富である為、地域の医療機関との連携が可能である。また糖尿病センターを設置し、糖尿病合併症に対する専門的な治療も各診療科の専門医との共同により質の高い治療の提供が可能である。このように専門医とかかりつけ医の連携、さらに各診療科との共同が可能であることから、岐阜圏域での基幹的医療機能をもつ医療機関として、地域内での糖尿病対策の中心的役割を担うべきである。 |

| NO | 状況 | 医療機関名 | 所在地 | 自施設の現状等 | 2025年に向けて担うべき役割等 | 病床機能等の見直し | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | ①<br>病床<br>機能 | ②<br>病床数 | ③医療<br>機関の<br>役割 | ④<br>連携、<br>再編 | ⑤<br>その他 | ⑥<br>現状<br>維持 | 具体的な内容 |
| 37 | 変更 | 松波総合病院 | 笠松町 | ・放射線診断は、放射線診断専門医（4名）による画像診断を実施しており、各診療科とのダブルチェック体制を完備し、病変の見逃しの回避と適切な運用、評価を可能にしている。また近隣の連携医からの画像検査依頼に積極的に取り組んでおり、その画像診断業務にも携わっている。<br>・病理医3名（指導医1名、専門医1名）により病理診断を実施している。通常の病理組織検査の他、術中迅速病理診断にも対応しており、これにより適切な手術方法が選択でき、医療の質の向上につながっている。当院の剖検件数は、2021年度に全国5位（日本内科学会誌）となり、また、剖検率で全国3位に位置しており、剖検を通して初期研修医教育に力を入れ、日本の医療の進歩に大きく貢献している。<br>【課題】<br>〇岐阜圏域南部地域の急性期医療・救急医療について<br>岐阜圏域では当院の他に、岐阜大学医学部附属病院、岐阜県総合医療センター、岐阜市民病院の4施設が急性期医療の中心的役割を担っている。当院は屋上にヘリポートを設置しているが、現状、年間数例の利用しかされておらず、今後ヘリポートの利用件数を増やす必要がある。岐阜圏域において当院は最も南部に位置しており、近隣には羽島市民病院があるので、より連係を深め、急性期医療・救急医療において岐阜圏域南部地域の中心的役割を担っていく病院として一層の機能の充実と体制強化を図らなければならない。<br>〇災害医療について<br>地域災害拠点病院としての責務を果たすため、DMATを2チーム編成しており、災害対応の職員の危機管理意識の向上、「松波総合病院災害対策マニュアル」に基づいた、より具体的な災害実働訓練（災害発生時の各職員の役割分担の徹底）を実施しているが、広域（愛知県含む）における災害訓練を行う必要がある。さらに近年の気候変動による水害の発生が懸念されるため、近くを流れる木曽川の氾濫を想定した水害訓練を継続的に笠松町と共同で実施する必要がある。また、BCP（事業継続計画）の定期的な見直しを図らなければならない。<br>〇周産期医療について<br>岐阜県内の産婦人科・産科医師数は、減少傾向にあるが、当院は岐阜圏域の岐阜南地域における二次周産期医療機関（周産期医療協力病院）としての責務を果たしている。今後、分娩を取り扱う医療機関が減少していく中、二次周産期医療機関の機能を維持する為に、産科医の確保が重要である。また、笠松町育児ほほえみ相談等の産後ケアの対応も行政と協力して対応しているが、更なる充実した周産期医療が提供できる体制づくりを図っていかなければならない。<br>〇質の高いがん診療の強化<br>岐阜県がん対策推進計画を踏まえ、当院が岐阜圏域でがん診療に果たす役割を十分考慮した上で診療実績、人的配置、地域連携、相談支援、人材育成、臨床研究等に関する取り組みを充実していく必要がある。また、我が国に多いがん（肺、消化器、乳、婦人科、泌尿器、血液）について、更なる診療体制の充実を図っていかなければならない。<br>〇急性心筋梗塞対策について<br>急性心筋梗塞の医療提供体制において、当院は心臓CT検査や心臓カテーテル検査などの必要な検査・専門的治療を24時間提供する医療機関（心臓カテーテル治療施設）であり、冠動脈バイパス手術などの外科的な治療も可能な医療機関（心臓外科治療施設）でもある。 また心大血管リハビリテーション料（Ⅰ）の届出を行っており、早期治療や再発予防、早期リハビリ、危険因子の管理等が行える体制にあることから、関係機関との連携体制の更なる強化を図っていく必要がある。また、大動脈弁狭窄症の新しい治療法であるTAVI（経カテーテル大動脈弁置換術）の実施施設として2022年8月に認定され、2022年10月に実施施設認定後、初の症例を行っており（2022年度実施件数：16件）、今後も高度な医療が提供できるよう体制の強化を図っていく必要がある。<br>〇脳卒中対策について<br>脳卒中の医療提供体制において、当院は急性期医療機関であるが、回復期リハビリテーション病棟も持つ医療機関でもある。また、脳卒中の発症後のt-PA療法（血栓溶解療法）などの専門的な治療ができる超急性期医療機関として対応しているが、更なる救急体制の充実を図り、救命率の向上を目指す。また脳梗塞の原因となる頸動脈狭窄症の治療について、数多くの手術件数を重ねているが、更なる体制の充実を図っていく必要がある。<br>〇糖尿病対策について<br>糖尿病の基幹的医療機能を持つ病院（岐阜医療圏7 施設・但し岐阜大学病院を含む）および糖尿病合併症に対する専門病院（網膜症、慢性腎不全、心血管障害、末梢血管障害、脳血管障害）として、また多くの糖尿病のスペシャリスト（指導医4名、専門医4名：計8名）を有する医療機関として地域内での中心的役割を担っているが、肥満が原因で糖尿病になる患者が急増しており、肥満外来などの専門性の高い診療を充実していくことが求められる。<br>〇精神疾患対策について<br>後期高齢者社会となる中、入院・外来患者への精神疾患治療体制を充実していかなければならない。入院患者に対しては、せん妄予防や認知症ケアなどの診療体制の充実を図っていかなければならない。また、がん患者をはじめとする緩和ケアを必要とする患者に対して、充実した緩和ケア医療が提供できる体制を確保しなければならない。<br>〇在宅医療支援の推進<br>高齢化社会となり、在宅医療は、重要医療事業の一つに追加され、今後益々重要性が増してくる。当院は在宅療養後方支援病院として、羽島郡医師会と協同して、地域の在宅療養支援診療所及び介護サービス事業所や当法人の訪問看護・介護事業所との連携による急変時の患者の受け入れ強化や在宅医療を担う近隣医師へのサポート体制の充実を図らなければならない。<br>〇共同利用の推進<br>当院では、近年ダヴィンチ、3 テスラMRIや360 列CT等の高額医療機器を整備し、高度な医療提供体制を整えている。今後、更なる地域の医療機関と密接な連携と機能分担を図り、共同利用を推進することで、無駄な医療費の削減を目的とする医療資源の効率的活用を図らなければならない。<br>〇放射線治療について<br>放射線治療件数は増加しているが、当院の放射線治療装置の寿命が近づいており、放射線治療装置を買い替え、地域がん診療連携拠点病院指定取得のため、より高度な治療が行えるようグレードアップをする予定である。 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | | また、糖尿病をはじめとする生活習慣病の根本的改善には、適切な食事の摂取と運動能力の向上が重要となっており、生活習慣病患者やその予備軍の方々に、安全で効果のある運動療法を提供する施設として医療法42条施設(疾病予防運動施設)の運営を目指していく。<br>〇精神疾患対策について<br>精神科の常勤医師および認知症認定看護師を中心に、薬剤師、看護師、作業療法士、公認心理士等の多職種によるチームの支援体制で、認知症患者のケアに取り組んでいる。<br>認知症患者ができる限り住み慣れた地域で生活を続けるために、医療と介護の連携を行い、総合的なケアが提供されるように支援していく。<br>また、今後は地域医療・介護施設等および地域住民に向けての啓蒙活動として講習会などの情報発進を行っていく。<br>〇在宅医療支援の推進<br>医師、薬剤師、看護師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、ケアマネージャー等の多職種が各々の専門知識を生かし、積極的に意見交換や情報共有を行い、在宅療養後方支援病院として、地域の在宅療養支援診療所及び介護サービス事業所との連携を更に深めていく必要がある。また当法人の訪問看護事業所との共同による急変時の受け入れを強化することにより、チーム医療での患者やその家族に対し、質の高い在宅医療を提供できる体制を整備していく。<br>〇統合医療の導入<br>水素療法、アロマ療法、音楽療法、電気療法、漢方、鍼灸などの一般的には補完医療として軽視されがちな医療を取捨選択して、当院の西洋医療の高い知識・技能を補い、より患者が満足する医療の提供を目指していく。<br><br>④複数医療機関による連携、再編（役割分担の明確化・変更、医療機能の集約化、医療機関の統合、地域医療連携推進法人の設立等）の実施<br>〇地域医療連携推進法人の設立予定<br>岐阜圏域においては、岐阜大学医学部附属病院を中心に、岐阜県総合医療センター、岐阜市民病院、松波総合病院が地域医療連携推進法人制度の導入も視野に入れ、治験・臨床研究のほか、医薬品や医療機器に関する情報交換や医師をはじめとする人材育成等での連携を行う『岐阜医療圏地域コンソーシアム』を設立し、活動を行っている。 |

| NO | 状況 | 医療機関名 | 所在地 | 自施設の現状等 | 2025年に向けて担うべき役割等 | 病床機能等の見直し | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | ①<br>病床<br>機能 | ②<br>病床数 | ③医療<br>機関の<br>役割 | ④<br>連携、<br>再編 | ⑤<br>その他 | ⑥<br>現状<br>維持 | 具体的な内容 |
| 37 | 変更 | 松波総合病院 | 笠松町 | 【2025年に向けて担うべき役割等】<br>〇岐阜圏域南部地域の急性期医療・救急医療について<br>岐阜圏域では当院の他に、岐阜大学医学部附属病院、岐阜県総合医療センター、岐阜市民病院の4施設が急性期医療の中心的役割を担っていく。この中で当院が最も南部に位置していることを踏まえ、3病院の指導・協力を受けながら、岐阜圏域南部地域の急性期医療、救急医療の中心的役割を担っていくべきである。その一環として、消防機関と連携して救急ワークステーションを実施し、「ドクターカー」などで医療が現場へ出ていく体制作りを整え、迅速な救急医療の提供に務める。また、当院の屋上ヘリポートを活用することで、遠隔地からの「ドクターヘリ」による患者搬送を積極的に受け入れることができ、早期医療介入と救命率の向上を目指す。また、2025年には救命救急センターの指定要件となっている救急科専門医等の人員を満たす予定であるため、その際には早急に救命救急センターの指定取得を目指したい。<br>〇がん診療について<br>がん治療部門、がん相談支援・診療連携部門、緩和部門、がんリハビリテーション部門、がんゲノム医療部門の5部門からなるがんセンターを中心に患者に適切な治療を提供しているが、今後は、がんに罹ったことによるがん患者の生活や将来への不安、苦痛の緩和といった面の支援にも力を入れ、地域や社会との連携強化を図る必要がある（就労支援等）。また地域がん診療連携拠点病院の指定に向けた準備を進めており、診療体制の整備や診療実績において、指定要件を満たしている。引き続き質の高いがん診療を提供できるよう務めていく。また当院には、遺伝子治療に精通した認定遺伝カウンセラーが1名所属しており、<br>ゲノム医療といった新しいがん診療領域への体制の強化を図る一環として、遺伝カウンセリングを開始していく。<br>〇災害医療について<br>大規模災害訓練等を実施しているが、今後は広域（愛知県含む）での医療・介護施設および　各行政との連携を踏まえた災害医療提供の訓練を実施し、DMATをはじめ災害に備えた医療体制の提供およびBCPの更なる構築を目指したい。<br>〇へき地医療について<br>2021年4月にへき地医療拠点病院の指定を受け、社会医療法人の使命としてより広範囲のへき地における医療体制の維持に務めていく。<br>〇周産期医療について<br>岐阜南地域における周産期医療協力病院としての責務を果たしてきているが、産後ケアも含めた対応が必要であり、今後も更に行政（笠松町育児ほほえみ相談）との連携を含めて、より広範囲な地域での産後ケアの拡大に努めていきたい。<br>〇小児医療について<br>引き続き小児医療（小児救急も含む）も提供していくが、更に小児発達障害児等の増加に対して、2021年4月に開設した『こころの発達診療センター』を中心に、医師、看護師、公認心理士、言語聴覚士などの様々な専門スタッフがそれぞれの専門性を活かしたサポート体制の強化を図っていく。 | | 〇 | | 〇 | 〇 | 〇 | | 〇その他の医療機関との地域医療連携推進法人の設立<br>当院の法人である社会医療法人蘇西厚生会、美濃市立美濃病院、海津市医師会病院との地域医療連携推進法人設立の検討を行っている。医療圏の垣根を越え、互いに補完し合うことで、急速に進む少子高齢化の中で、安定性と持続性を併せもった効率的な医療提供体制を構築し、それぞれの地域住民の暮らしの安心を実現できるよう図っていく。<br><br>⑤その他<br>〇医療機器および病床の共同利用の推進<br>地域の中心的医療機関として、開放型病床あるいは放射線治療装置やPET装置等の共同利用を目的とした高額医療機器を整備し、共同利用施設として地域の医療機関との密接な連携と機能分担の促進、医療資源の効率活用を図り、地域医療水準の向上を推進していく。<br>また一方で、圏域内で同様の高額医療機器が多数導入されており、この点においては、無秩序な導入を避け、共同利用の促進などによってその利用の効率化を図らなければならない。<br>その為、高額医療機器の導入については、圏域内で協議すべきである。 |
| 38 | 新規 | 福富医院 | 岐阜市 | 【現状、特徴】<br>岐阜市内で小児が入院できる病院は4病院である。当院は有床診療所であるが小児科医が常駐しているため、小児にとっては5番目の施設である。小児の一時的な急性期の入院できる医療機関としての役を果たしている。また地域の高齢者においても一時的な感染症の悪化時にも対応している。<br>【課題】<br>看護師の人材確保に苦慮している。休日にも勤務が振り分けられるため相対的な看護師不足である。地域的に北部にあるため看護師の人材確保が課題である | 小児の感染流行時は大きな病院であっても癌や慢性の疾患の入院が多く、急性期の病床には限りがある。そのため感染流行期には他の小児科からの紹介入院もある。そのため有床診療所であっても開放型の病床を設置し、地域の診療所に役立つ診療所としての役割を担う | | | | | | 〇 | 病床に対する医療ニーズは大きいものの、病床の増床が困難であるため |
| 46 | 未回答 | 大橋・谷 整形外科 | 岐阜市 | 未回答 | | | | | | | | |
| 48 | 新規 | 佐久間眼科医院 | 岐阜市 | 【現状、特徴】<br>白内障手術時の日帰り・一泊入院で使用している<br>【課題】<br>無床診療所への変更も考えているが、もうしばらく有床を続ける予定です。 | 無床診療所への変更も考えているが、もうしばらく有床を続け予定 | 〇 | 〇 | | | | | 無床診療所への変更を予定している |
| 54 | 新規 | 高橋眼科医院 | 岐阜市 | 【現状、特徴】<br>開設以来、地域に根差した医療サービスを提供しているクリニックです。一般診療を行うほか、白内障の日帰り手術や小児の近視進行の予防治療、斜視・弱視外来などの治療に力を入れています。<br>【課題】<br>看護師不足 | 岐阜市にある眼科クリニックでです。患者さんのかかりつけ医としてコミュニケーションを重視し、分かりやすい診療を目指します。白内障・緑内障・斜視・硝子体手術も行っており入院設備も整っています。近視進行予防などの予防医療・アイフレイルにも取り組みます。 | | | | | | 〇 | 現状のままで問題ないないため |

| NO | 状況 | 医療機関名 | 所在地 | 自施設の現状等 | 2025年に向けて担うべき役割等 | 病床機能等の見直し | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | ①<br>病床<br>機能 | ②<br>病床数 | ③医療<br>機関の<br>役割 | ④<br>連携、<br>再編 | ⑤<br>その他 | ⑥<br>現状<br>維持 | 具体的な内容 |
| 63 | 変更 | 松岡整形外科・内科リハビリテーション | 岐阜市 | 【現状、特徴】<br>岐阜市を中心に、医療・介護・福祉・保育サービスを展開し、地域の人々が住み慣れた地域で暮らし続けられるように、愛される施設づくりを我々のライフワークとして邁進しています。なかでも運動器系統の機能障害と形状変化の予防と治療に力を入れています。<br>【課題】<br>地域の高齢化により腰痛、膝、脊椎等整形外科分野対象の健康寿命を永くする為にも痛みを取り除く手術は必須になってきます。今は簡単にできる手術も増え、リスクも少なくなっており今後は手術件数も増える見込みの為、急性期（一般病床）を増床する計画を加速させる。 | 高齢者に多い骨折や脊髄の手術を積極的に行い、入院治療とリハビリを提供することで在宅復帰や介護サービスに結び付けていく。<br>特に在宅復帰後も馴染みのある地域で暮らしていけるよう地域医療の発展に貢献する役割を担う。 | ○ | | | | | | 現在の病床（一般病床:1床、療養病床：18床）から一般病床：7床、療養病床：12床に変更する予定である |
| 73 | 新規 | 各務原第一外科 | 各務原市 | 【現状、特徴】<br>高次医療機関が手術適応や高度な医療の適応外とする受け入れ先のない骨折者等の入院や施設入所中の高齢、超高齢者の肺炎等急性期医療の受け入れあるいは看取りをおこなっている。<br>【課題】<br>人員、能力の不足 | もともと病床数は少なく、現状のとおり医療をおこなうしかない | | | | | | ○ | 8床しかない有床診療所に機能を問うのは意味がないと思います。急性期であり看取りであり、病床機能を振り分けるほどの規模もないのが現状。 |
| 80 | 未回答 | 医療法人寿康会村上医院耳鼻咽喉科 | 各務原市 | 未回答 | | | | | | | | |
| 83 | 未回答 | 佐竹整形外科 | 瑞穂市 | 未回答 | | | | | | | | |
| 84 | 変更 | 医療法人清光会名和内科 | 瑞穂市 | 【現状、特徴】<br>・自院のかかりつけ患者の受け入れ。<br>・地域の介護施設からの受け入れ。<br>【課題】<br>特になし | 地域の方々が安心して通院できる身近な医療施設として、ご利用者様に納得して頂ける医療の提供を心掛ける。 | | | | | | ○ | 地域包括ケアシステムにおける医療機関としてこれまで通り役割を果たしていきたい。 |
| 85 | 未回答 | 堀部クリニック | 本巣市 | 未回答 | | | | | | | | |

| NO | 状況 | 医療機関名 | 所在地 | 自施設の現状等 | 2025年に向けて担うべき役割等 | 病床機能等の見直し | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | ①<br>病床<br>機能 | ②<br>病床数 | ③医療<br>機関の<br>役割 | ④<br>連携、<br>再編 | ⑤<br>その他 | ⑥<br>現状<br>維持 | 具体的な内容 |
| 89 | 変更 | まつなみ健康増進クリニック | 笠松町 | 【現状、特徴】<br>・当クリニックは、2002年に以前から稼働していた松波総合病院附属診療所から外来部門を強化・発展させ、人間ドック・健診センターを備えるクリニックとして稼働している。また、患者が通院中に症状が悪化し、入院加療が必要となった場合には、松波総合病院に全面的にバックアップしてもらえる体制を整えている。<br>・標榜診療科は、18診療科を届出している（2023年5月時点）。<br>　内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、血液・腫瘍内科、腎臓内科、外科、呼吸器外科、心臓血管外科、消化器外科、乳腺外科、肛門科、形成外科、放射線科、小児科、皮膚科、リウマチ科、精神科<br>・がん診療を当クリニックと松波総合病院でそれぞれ行なっていたものを2023年5月より松波総合病院で一括管理し、より効率的で安全・安心ながん医療を提供できるよう体制を整備した。<br>・当クリニックが専門性の高い外来診療でかかりつけ医を後方支援することで、お互いの機能の役割分担と連携を行っている。また当クリニックは、多くの専門医が属しており、他疾患の専門家へのアクセスも容易で、特に併存症の多い高齢者の診療に適切な医療を提供することが可能である。<br>・地域住民への食事療法、運動療法を含めた生活習慣の改善を通じて健康そのものを増進することに主眼をおいた治療を行い、致命的な疾患をできる限り引き起こさないよう配慮している。<br>・当クリニック3階には、人間ドック・健診センターを設置しており、最新の医療機器と充実したコースを整え、専門スタッフを配置している。<br>・院内感染対策は極めて重要であり、クリニック全体として組織的に院内感染対策を十分に講じることが不可欠である。その為、クリニック長のもと院内感染対策室（医師（院内感染責任者）、看護師、薬剤師）を設置し、院内感染防止マニュアルを作成、指針を示すとともに、毎月定期的に松波総合病院と共同して院内感染対策委員会を開催している。また院内感染対策室による週1回の院内ラウンドを実施し、院内感染防止対策の実施状況の把握・指導を行っている。新興感染症・再興感染症（発熱患者）に対応する為に敷地内に発熱外来専用施設を設置し、患者同士による感染防止にも努めている。<br>【課題】<br>松波総合病院と協力の下、下記の課題について協議を行い、当クリニックの役割について再検討していく。<br>　・急性心筋梗塞対策について<br>　・糖尿病対策について<br>　・小児医療について<br>　・認知症対策について<br>　・在宅医療の推進<br>　・待合室の混雑解消について（診療時間、予約方法の見直しによる院内滞在時間の短縮）<br>【2025年に向けて担うべき役割等】<br>松波総合病院と協力・協議を行い、当クリニックが担うべき役割について対応していく。<br>〇かかりつけ医について<br>外来患者の減少する環境の中、かかりつけ医として健康に関する相談に対応し、最新の医療情報を熟知し、必要に応じて隣接する松波総合病院をはじめとする専門医、専門医療機関を紹介し、地域医療を支える診療所としての役割をさらに拡大していく。<br>高血圧症、糖尿病や脂質異常症などの生活習慣病については、専門医を配置し、継続的に治療・指導を行っているが、更なる体制の強化を図っていく。病気の予防や早期発見、早期治療を可能にするために、人間ドック等への健診受診にも注力していく。<br>〇予防接種について<br>多くの人が予防接種を受けることで感染症の蔓延化を防ぐことができる。当クリニックでは、小児から高齢者を対象とした各種の予防接種に対応をしており、対象疾患の発症あるいは重症化の予防に務めている。<br>〇小児医療について<br>引き続き小児医療（小児救急も含む）も提供していくが、更に小児発達障害児等の増加が考えられ、医師だけではなく臨床心理士によるサポート体制強化を図っていく。<br>〇認知症ケアについて<br>増加傾向にある認知症患者の医療サポートについて、認知症患者ができる限り住み慣れた地域で生活を続けるために、当クリニックもかかりつけ医として、認知症の早期発見、健康管理や疾患への対応を行い、介護サービスなどと連携し、総合的に関わっていく。<br>また当クリニックの認知症サポート医は、かかりつけ医への助言などのサポートを行い、地域における認知症医療・介護などがスムーズに連携し、機能するよう注力していく。<br>〇在宅医療について<br>在宅医療の需要は、高齢化の進展などにより大きく増加する見込みで、需要の拡大に対応していく必要がある一方、近年、医師の高齢化等の問題により医師不足が深刻化しており、在宅医療における医師の負担は多くなりがちである。在宅医療に携わる医師の負担を軽減するために、当クリニックにも在宅医療担当医師を配置し、患者やそれを取り巻く環境を察知しながら、質の高い医療サービスの提供に努めていく。 | | | ○ | ○ | ○ | | ①病床機能（高度急性期、急性期、回復期、慢性期）の見直し<br>人間ドック専用病床として10床有しているが、『急性期』病床として維持していく。<br>②病床数の見直し<br>当院の人間ドック・健診センターでは、精密な検査を利用者に提供するために1泊2日コースを設けており、利用者のニーズに応える為、病床数を維持していく。<br>③医療機関の役割（診療科、5疾病5事業等）の見直し<br>現在、各診療科が垣根を越えて共同体制を敷いており、チーム医療として提供している。国民的な疾患である高血圧、糖尿病、脂質異常症に対しては、人間ドック・健診センターとの共同を図り、地域一体の生活習慣病管理を行うことを目標としている。 他医療機関からの紹介や入院診療については、松波総合病院で対応し、その後の継続的な治療については、当クリニックでフォローアップをしているが、患者が外来治療で快適な生活が送れるようにサポートできる連携協力体制の更なる強化を図っていく。<br>④複数医療機関による連携、再編（役割分担の明確化・変更、医療機能の集約化、医療機関の統合、地域医療連携推進法人の設立等）の実施<br>〇地域医療連携推進法人の設立予定<br>岐阜圏域においては、岐阜大学医学部附属病院を中心に、岐阜県総合医療センター、岐阜市民病院、松波総合病院が地域医療連携推進法人制度の導入も視野に入れ、治験・臨床研究のほか、医薬品や医療機器に関する情報交換や医師をはじめとする人材育成等での連携を行う『岐阜医療圏地域コンソーシアム』を設立し、活動を行っている。当クリニックは、松波総合病院の関連組織として活動及び支援を行っている。<br>〇その他の医療機関との地域医療連携推進法人の設立<br>当クリニックの法人である社会医療法人蘇西厚生会、美濃市立美濃病院、海津市医師会病院との地域医療連携推進法人設立の検討を行っている。医療圏の垣根を越え、互いに補完し合うことで、急速に進む少子高齢化の中で、安定性と持続性を併せもった効率的な医療提供体制を構築し、それぞれの地域住民の暮らしの安心を実現できるよう図っていく。<br>⑤その他<br>・岐阜圏域南部の地域医療を維持するために、現在標榜している診療科を維持しつつ、認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）における認知症予防として老年内科を新設し、同一法人の松波総合病院と総合的に対応していく。 |

| NO | 状況 | 医療機関名 | 所在地 | 自施設の現状等 | 2025年に向けて担うべき役割等 | 病床機能等の見直し | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | ①<br>病床<br>機能 | ②<br>病床数 | ③医療<br>機関の<br>役割 | ④<br>連携、<br>再編 | ⑤<br>その他 | ⑥<br>現状<br>維持 | 具体的な内容 |
| 89 | 変更 | まつなみ健康増進クリニック | 笠松町 | | | | | ○ | ○ | ○ | | ・在宅医療の提供体制に求められる医療機能として①退院支援、②日常の療養支援、③急変時の対応、④看取りがある。当クリニックの医師は、特に②に留意し、多職種共同による患者や家族の生活を支える観点からの医療の提供、緩和ケアの提供、家族への支援を行う必要があり、体制を整えていく。<br>・岐阜圏域南部に下記のような専門的な医療を提供する施設がないため、診療科を新設し、同一法人の松波総合病院と協力して、地域に医療を提供していく。<br>（移植外科、甲状腺内科、アレルギー科）<br>・新興感染症・再興感染症（発熱患者）の対応については、来院者、病院職員を感染者から守りつつ、発熱患者対応を迅速に行うために、敷地内に4個室からなる3基の「待合UNIT」（12室の個室待合室）、陰圧診察室の「診察UNIT」、CT検査用の「CT-UNIT」からなるGIFU CUBEを設置し、発熱外来として運用している。対応患者数は1日10人前後である。現在の感染症が終息するには、 |
| 90 | 未回答 | 羽島クリニック | 笠松町 | 未回答 | | | | | | | | |